



毎日新聞

MAINICHI



5月15日(日)

2022年(令和4年)

Sunday



重さ約15kgの水がめを運ぶ児童ら

「ユニセフ教室」 小学校で活動紹介

宮崎・都城

世界の子ともたちのために活動するユニセフのおうと、宮崎県都城市

立明道小学校で12日、「ユニセフ教室」があった。日本ユニセフ協会の金子雅彦・学校事業部長が世界の子ともたちの現状を説明し、児童らは自分に何ができるかを考えた。

毎年10道府県程度を回る「ユニセフ・キャンパイン」の一環で、宮崎県内での開催は5年ぶり。この日は同校6年の児童42人が参加した。金子事業部長は「二人一人が行動して、これからの世界を変えてほしい」と呼び掛けた。

「教室」では、児童らは実際にネパールで水くみに使われている黄銅製の水がめを水を運んだ。満水にすると15kgにもなるため、児童からは「校庭を一周したら倒れるかもしれない」との声も漏れた。

有木理一郎さん(11)は、ネパールで水運びのために学校に通えない

子どもたちがいることを知り、「学校で勉強できるのはありがたいと感じた」と話していた。

【杉谷健太】

5月12日(木)、**明道小学校150周年イベント**、第2弾として、「**ユニセフ教室**」が開催されました。5月15日(日)版の毎日新聞に記事が大きく掲載されましたので、皆さんに紹介のために、配付します。

世界には、水・伝染病・学校への通学・毎日の食事などに苦しむ子ども達がたくさんいます。日本はとても恵まれており、幸せであることを実感し、このような日本を創ってきてくれたご先祖様方に感謝すると共に、世界で困っている子ども達を助けてあげたいという気持ちを育てて欲しいと願います。

世界から、戦争や貧困がなくなり、皆が仲良く幸せに暮らせる世界になることを、心から願います。

令和4年5月16日

明道小学校 校長 後藤世志哉

※この記事の学級の皆さんへの配付・HP掲載を、毎日新聞社が許可してくださいました。(2023.5.16まで)